

国際ジオテクスタイル学会日本支部事務局紹介

J C I G S事務局 森田 敏 郎

1. 学会との出会いと経緯

国際ジオテクスタイル学会日本支部は1984年8月3日に設立され、窓口業務を社団法人土質工学会総務課の吉岡紀男氏にお願いすることで発足しました。

爾来支部長を始め、幹事・会員各位のご支援を得て、会員数は増加の一途をたどり、これに伴い事務局の作業量も急増してまいりました。そして熊谷幹事（前田建設工業(株)技研）よりIGS学会の仕事を手伝って貰えないかとの話がございました。

私はもともと化学会社(東亜合成化学工業(株))の出身ですが、工場、技術、管理、営業、と新製品の開発を手がけたあと、建材分野に進出することとなり、地盤改良の薬液注入剤ならびに薬注工法の開発業務を定年後も引き継ぎました。軟弱地盤に異質の薬液を注入する工法でして、この挙動を観察すれば地盤の構成を知りうるのではないかとの発想で研究を開始し、先づ土質工学会に入会登録して熊谷氏の指導のもと共同論文を5回に亘り土質工学研究発表会に発表した経緯があります。その後体調をくずしたため、前職を辞し静養中でしたが、当学会は今までお世話になった官学民の土質関連学会であり、少しでもお役に立てればとの思いで、平成2年より当IGSの事務局で実務を担当させて戴いております。

これまでに講演会の会場探し、同時通訳付国際セミナーの設営は初の経験でしたが、本年度総会を4回無事迎えることが出来ました。

会員数も順調な増えかたをしており、特に今年の総会は、土質工学会会議室の会場も満員の盛況でした。

学会のすこやかな発展は、事務局の目標でもあり、これも皆様方のお陰と感謝しております。

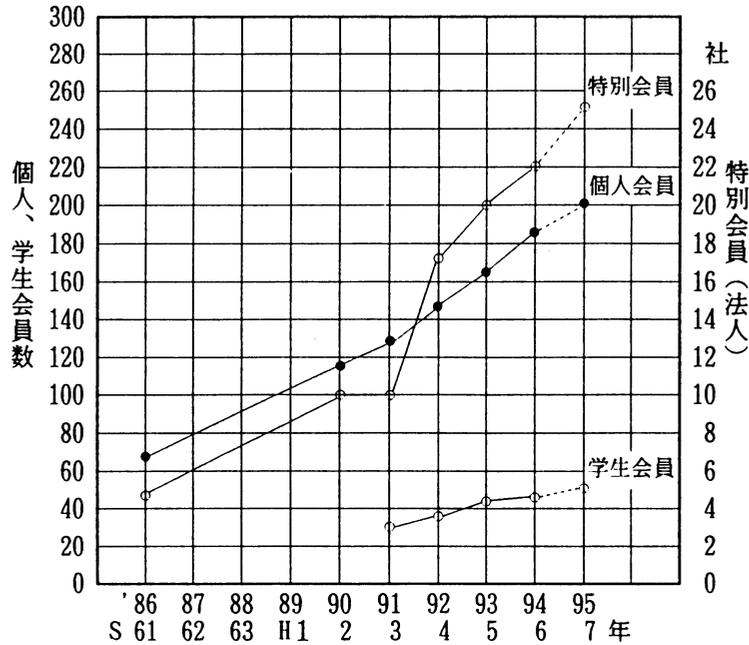
2. 会員数の増加統計

JCIGS会員数の推移については、岩崎幹事長がまとめられていますが、年初の1月1日現在の会員数をベースに再検討してみました。

ここ数年の年間伸び率、個人会員+12%、特別会員+13.5%、学生会員+11%でIGSに対する努力の成果が伺われます。

平成年次		2	3	4	5	6	(目標) 7
西暦年次	1986	1990	1991	1992	1993	1994	1995
個人会員	64	115	126	146	164	184	(201)
特別会員	5	10	10	17	20	22	(25)
学生会員	—	—	31	35	41	43	(80)
計	69	125	167	198	225	249	(276)

JCIGS会員数の推移



3. 委員会の活動紹介

支部規定によると学会の目的は「国際ジオテキスタイル学会（本部）に参加し、ジオテキスタイルに関する情報の収集と交換、技術の向上と発展をはかる。」となっており、現在次の委員会が組織されています。

委員会名	構成	委員長	内容
幹事会	36名	岩崎高明	年次計画の立案と推進
編集委員会	11名	赤木俊允	機関誌の充実、使用量調査統計
企画委員会	約10名	熊谷浩二	基盤の整備、長期計画、入会案内※
行事委員会	約10名	坂口昌彦	講習会、シンポジウムの準備、運営※
技術委員会	33名	堀口隆司	ジオメンブレン技術委員会H5, 11発足

※今期の活動計画は現在検討中

土質工学会ジオテキスタイル試験方法基準化委員会（12名、巻内勝彦委員長）への協力

その他 IGSNews国際担当……赤木俊允理事 会計担当……丸山健吉幹事

英文名簿担当……鶴岡胤英幹事

事務局サイドよりみた主な活動内容を紹介します。

① 機関誌の充実

表紙デザイン刷新、内容30～100頁にUP

次回の立案は発行2ヶ月前、Hotな情報交換、参加意欲の向上を目指す。

② ジオシンセティックス使用量の調査継続

機密保持に注意して、隔年実施の予定

③ ジオメンブレン技術委員会の発足

委員を公募し、33名の大会帯ですが、勉強会、セミナーを精力的に実施し、レベルUPをはかる。

④ 名簿の発行と発送業務のO A化

IGS日本支部の刊行物（テキスト、シンポジウム、技術情報）は(株)東進印刷で印刷されていますが、名簿、宛名シールも東進にIn Putされており、発送も出来るよう一元化を進めています。

⑤ 第5回シンガポール国際会議（9/5～9/9）への参加

など今年も多忙な1年になりそうです。

委員会活動、社業活動を通じ、夫々の分野における皆様のご活躍とご発展を期待して、事務局紹介記事とさせていただきます。

以上